

「今を生きる」

(校長便り R2 NO. 4)

凡事徹底

今日で1学期が終了します。生徒の皆さん、振り返ってみてどうでしたか？言うまでもなく、この1学期は新型コロナウイルス感染症に翻弄された学期でもありました。しかし、出来なかったことや失われたものがたくさんあった一方で、気付いたことや得たものも多かったのではないのでしょうか。自分が何に気づき、何を得たのかを、ぜひこの節目に振り返ってほしいと思います。私自身も日頃、節目節目にそれまでを振り返ることを心がけています。え、ちょっと待てよ。「校長便り NO. 2」では過去の失敗にくよくよせず、「今を懸命に生きる」ことが大切って言ってたじゃないか。その通りです。実は、過去を振り返ることと過去に囚（とら）われることとは違います。「今を生きる」ためにも過去の自分を振り返り、向き合うことは必要なのです。

話は変わりますが、「今を生きる」と同等に肝に銘じているのが「凡事徹底」という言葉です。

「凡事徹底」とは、平凡で当たり前のことを徹底して行うという意味です。メジャーリーグで長年活躍したイチロー選手は、高校時代、1日にわずか10分ですが、素振りを寝る前に欠かさず3年間続けたそうです。その事実を知れば、「小さいことを重ねることが、とんでもない所に行くただひとつの道」というイチロー選手の言葉の重みが伝わってきますね。また、松下電器（現・パナソニック）創業者の松下幸之助さんは、生前、次のようなことを言われていたそうです。「伸びる会社は、訪問すればすぐわかる。『いらっしゃいませ、おはようございますという爽やかな挨拶が返ってくる会社』、『事務所や工場がキッチリと整理整頓されている会社』、『トイレの掃除がゆきとどいている会社』。この3つのことができている会社は間違いなく伸びる。逆に、これらが出来ていない会社は、今、ある程度の業績であっても、必ず駄目になる。そして、このことは人にも当てはまる。当たり前のこと、簡単なことをしっかりやり続けている人は、間違いなく成長する。」

簡単なことであっても継続すれば習慣となり、習慣はやがてその人の人格を形づくっていきます。そして人格は人生そのものへと繋がります。明日からの夏休みに、ぜひ皆さんの徹底すべき凡事を見つけてください。

追記：6月に断腸の思いで文化祭の中止を決定しました。その代替として、6月23日から26日まで、華道部の生徒たちが自分たちの作品を展示してくれました。その作品の素晴らしさや込められた思いに心打たれました。また、7月15日には家庭科部が夏の交通事故防止運動にちなみ、手作りのお守りを車の運転手に手渡し、安全運転を呼びかける活動に参加してくれました（7月18日付け神戸新聞、7月21日付け朝日新聞に掲載）。



△華道部の作品

令和2年7月29日



△家庭科部の活動の様子

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善

